

湯沢市横堀、空き教室で

地元巣立つ高校生 住民とランチ交流



地域住民らと交流する佐藤さん（右から2人目）と松田さん（同3人目）

空き教室を使って地元の子どもたちがかくれんぼをしたり、昼食を食べながら住民と和やかに交流したりする催しが2月28日、湯沢市横堀の旧横堀小学校で開かれた。

今春高校を卒業し、進学と就職で地元を離れる2人の生徒が企画。約60人が交流を楽しんだ。

企画したのは、湯沢翔北高校3年の佐藤さくらさんと松田翠香さん。2人は横堀地区で生まれ育ち、横堀小学校に1年生の時だけ通った。横堀小は2015年3月に閉校し、校舎は現在、横堀交流センターとして活用されている。

人口減が進む地域でつながりを創出し地元を活気づけようと実施し、地元の企業や住民が運営をサポートした。今後、佐藤さんは大学進学、松田さんは就職で仙台へ引っ越すため、地元を離れる前に思い出をつくりたいという気持ちもあったという。

かくれんぼは、隠れている間に出される「ミッション」を鬼役に見つからないようクリアする独自ルールを設定。参加者は「音楽室にあるいすの数は？」などのお題をクリアするため、大きな音を立てないように歩いていた。ゲームの後は、おにぎりを作っておしゃべりをしながら交流を楽しんだ。

松田さんは「想像以上の参加人数で、みんなが楽しむ姿を見て達成感が湧いた」、「地域の温かさを感じ、いつでも帰ってこられる場所があるんだなと思った」と話し

た。(館岡朋美)

(令和8年3月4日(水) 秋田さきがけ新聞から一部抜粋)